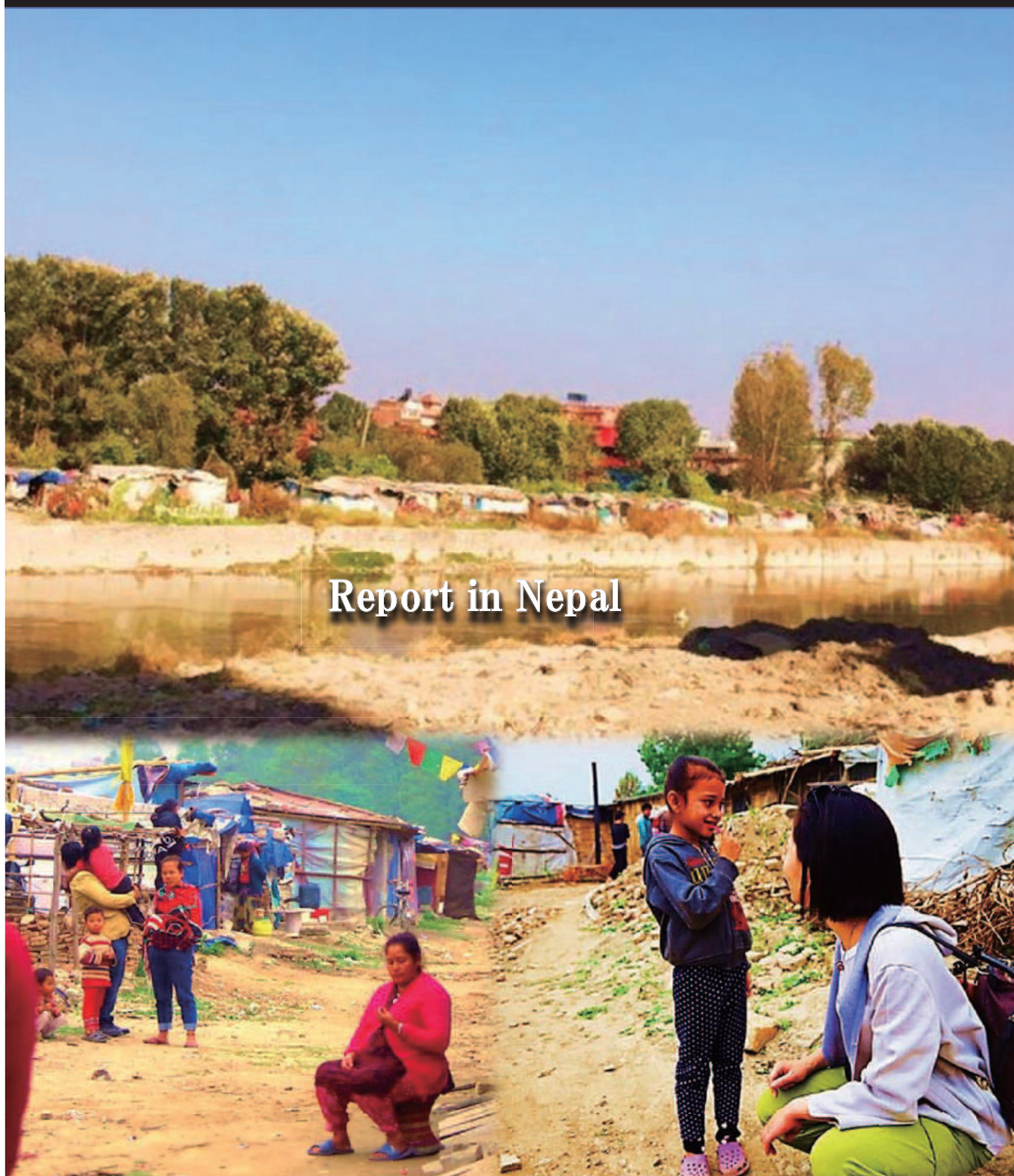


HIKARI SONG GIFT

～第二章～

Report in Nepal



HIKARI SONG GIFTとは

2015年4月にネパールを襲ったM7.8の大地震を受け始まった災害支援プロジェクト。電力不足が深刻な問題となっていたネパールへ光を届けるべく、ソーラー式ランタンを現地に送る活動を震災直後より始めました。

2016年4月「HIKARI SONG GIFT Vol.1」をネパールの世界遺産バクタプールで開催し、音楽と共に289個のランタンを届ける事ができました。

ランタンはライブ中キャンドルとして、日常生活では電気の代わりとして使用できます。

ようやくほとんどの地域で電力が復旧したものの、今だ復旧していない地域がまだまだあるのも現状です。そこで、今後も継続的に支援を続け現地の復興を応援したいという思いから、昨年に引き続き、2017年4月にもネパールにて「HIKARI SONG GIFT」を再び開催する事を決定しました。

HIKARI SONG GIFT の名前の由来は

“HIKARI” とは、同じ震災を経験した日本人が、ネパールを想い、復興の願いを込めた希望のヒカリです。

“SONG” とは、言葉なくして心を通じ合う事のできる音楽です。

“GIFT” とは、復興を願う人々の想いです。

HIKARI SONG GIFTチャリティ音楽フェスティバルは、希望のヒカリと音楽で地元の人々と共に楽しむ、日本とネパールを繋ぐフェスティバルです。

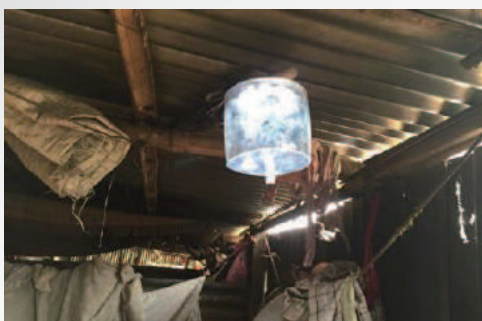
また、このフェスティバルがタイや台湾のランタン祭りのようにいずれネパールの観光産業に貢献していけるものになる事を目指しています。



HIKARI SONG GIFT 仙台Darwin

～東日本大震災を経験した私たちだからできること～
佐野碧が地元仙台のアーティストを集めて行った

2016年4月25日 HIKARI SONG GIFT Vol.1



世界遺産バクタプールにて5000人以上もの現地の方々がフェスに参加。
ライブ後には地震で亡くなった方々に祈りを捧げた。

佐野 碧 (AOI SANO) PROFILE



作詞、作曲、アレンジ、ミックスを一貫して自身で手掛けている。

そのクオリティーの高さから各世代に圧倒的な支持を集める1stアルバム「KARMA (カルマ)」をはじめJリーグ国際貢献テーマソングとなった

「千の灯火～shanti～」等、数々のシングルをこれまでにリリースしている。

彼女の作品は「繋がり」をテーマとし、力強さと優しさが同居した温かい歌声は、魂の真に迫り、時には行き場のない心にそっと寄り添い続ける。

2016年4月にはこれまでの功績が認められ、プロ野球楽天一阪神戦にて国家斉唱を務める。

HIKARI SONG GIFT Vol.2の開催を決意する

帰国後、「ヒカリと音楽であの日一つになった時間を忘れない。一度で終わらずに継続的に支援を続けていきたい」との思いがつのり、第二回を開催したいと思いました。

現地に住んでいる母からネパールの現状の報告を受け、より実質的な支援をしたいと思いました。

カトマンズなどの都市部では徐々に停電問題も改善され始めているとの事でした。

そんな中、母が学資支援をしている女の子の話を聞きました。彼女はタパタリのスラム（スクンバシ）に住んでいます。とても勉強を頑張っておりネパールで大事な試験であるSLCを優秀な成績でパスしたそうです。

そこには電気は通っておらず、夜は蝋燭の火を頼りに暮らしている家が多いとの事でした。「子どもたちはどうやって勉強をしているの？」私に何かできる事があるのではないかと思います。

そしてこの場所で「HIKARI SONG GIFT Vol.2」を開催する事を決定しました。

スラムを応援することは周りからバッシングを受けることもあります。

なぜなら政府はスラムに住んでる人々を認めていないからです。

「子どもたちに罪はない。」母の言葉が忘れられませんでした。

佐野 碧



左：アマ（プリタム）さん 右：学生（バビタ）さん



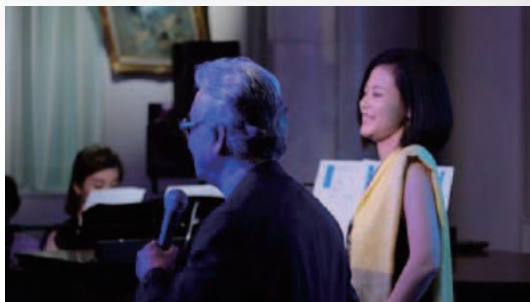
タパタリ スラムの様子

たくさんの想い

佐野碧のライブ活動を通して募金を募り、想いがヒカリとなっていきました。



2016. 05. 30 恵比寿天窓. switch
ワンマンライブ



2016. 06. 24 仙台Jazz me blues Nola
ワンマンライブ



2016. 08. 06 ネパールフェスティバル



2016. 11. 20 侍"
ファンミーティングライブ



2016. 10. 30 Pun Club Jp



2016. 12. 04 仙台市立荒巻小学校体育館
荒巻少年野球クラブ25周年記念ライブ



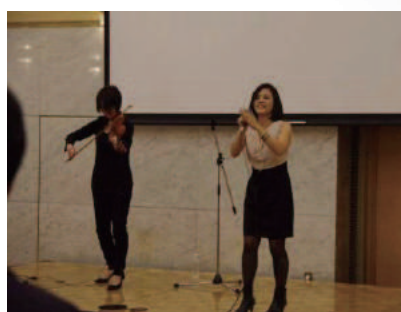
2016. 10. 10 国際紅白歌合戦



2016. 11. 05 宮城学院女子大学礼拝堂
ワンマンライブ



2016. 11. 11 Everest International school



2016. 12. 19 MAST東京会



2016. 12. 21 原宿アストロホール
ワンマンライブ



2017. 03. 31 ナマステカトマンズ



5 ● 2017. 04. 11 原宿ストロボカフェ
ワンマンライブ



2017. 04. 16 ネパリダイニングダルバート
壮行会ライブ ●

2017年4月19日日本出発

集まった100個の光（ソーラーランタン）と、想いを胸に日本を旅立ちました。



2017年4月20日ネパール到着



1年ぶりに着いたネパールの地。お店が道路にぎっしり並び、カラフルなサリーを着た女性たちで賑わっていました。

道路を走るバイクの数。バイクがスピードをあげて車と車の隙間を走り抜ける光景。

カトマンズ市内では水道工事をいたる所で行っていました。道路がひっくり返されたり、ボコボコの箇所が目立ちました。まだ復興に近づいたとは言えない景色でした。

その後、ソーラーランタンを渡す世帯のリストを確認し、ミーティング終了。



2017年4月20日

HIKARI SONG GIFT のステージでコラボレーションしてくれるManda: band と
カトマンズ キルティプルにてリハーサル。
この地はネワール民族が主に住んでいる土地。



音楽を奏すると国も言葉も何もかも越えて一つになる感覚。
FMラジオ局の方も来ており、イベントが盛り上がりそうな予感。
また、HIKARI SONG GIFT公式テーマソングでコラボレーションして下さった
世界的バンスリ奏者ラマン・マハラジャンさんと再会。大変嬉しかったです。
ダンニャバード。(ありがとうございます)



左：HIKARI SONG GIFT公式テーマソング
千の灯火〜Shanti〜で共演して下さった
ラマン・マハラジャンさん



2017年4月21日

タパタリのスラムへ訪問。ここは日本で集まったヒカリ(ソーラーランタン)と音楽を届けるイベントHIKARI SONG GIFT の開催場所。タメルから車で約30分ほどの距離に、180世帯が住む大きなスラムです。

翌日のイベント前に、ソーラーランタンを渡しにこの場所を訪れました。スラムの中に入ると、竹とビニールで作られた小屋が密集していました。このスラムで中心的に動いてくれていたアマ(お母さん)にご挨拶。私の母が学資支援している学生の母親です。最後まで一生懸命協力してくれました。



右：アマ（プリタム）さん



タパタリ スラムの様子

どの家にランタンを渡すかのリストなども一緒に作成してくれました。この家は太陽光がある、この家は他に家を借りて又貸しをしている…等々アマのおかげで、厳選してランタンを渡す事ができました。

当日、16時頃から20時頃まで一つ一つの小屋を周りながらランタンを配りました。もらってる人、もらってない人の確認を何度もしてくれたり、もめそうになったときも、そこに住む中心の方がまとめてくれたり…

スラムに住む他の方々も、渡している最中、現地の方々がリストに書いてる人に間違いはないか、多く受け取ってる人はいないか、みんながすごく責任をもって手伝ってくれました。



2017年4月21日



一方通行でなく現地の方が中心となっていけた理想の支援の形でした。
すべてご参加いただいた皆様のおかげです。ありがとうございます。

疑う気持ちとは

私は「信じる」その気持ちを大事にしていました。
ネパール到着一日目、二日目、その「信じる」に疑う気持ちが生まれました。

例えば、タクシーに乗るとき…
運転手さんが請求してきた金額をそのまま「信じる」ことをすれば、きっと私は一文無しになってしまいます。

信じないことは悪い事？疑うことはいけない事？

ランタン配布時、子どもたちがずっと私の手を握っていました。そのときも…
過去に騙された経験があったため、この子たちはソーラーランタンがほしいから一緒にいるのかな…子どもにさえ疑ってしまいました。

日本の価値観で言えば、疑うことは人間的になんとか悪いような気がします。
私は疑う気持ちに毎回罪悪感を感じ、少々疲れてしまいました。

しかし、ネパールにおいて疑うことは生きるためのツール
といっても過言ではないと気付きました。
疑うことは生きるためにいわば自分を守ることです。
ソーラーランタンも大切な守るべきものでした。

私の中で感じた疑いとは、その方の人間性を否定する訳ではありません。ただ自分を守るためのものでした。

では何故ネパールにおいて疑ってしまうの？
「日本人」として見られているという意識でいたからだと思います。

日本人はお金に余裕がある。日本人は優しい。
そんな日本人のレッテルのようなものを私は背負っていました。



佐野碧

2017年4月22日

HIKARI SONG GIFT Vol.2 フェスティバル当日。地元のダンス、歌を交えながらのチャリティフェスティバルは大いに盛り上がった。





演奏が始まると、瞬く間に歓声があがる
私もみんなも心を開く

Vol. 2のフェスの開催に至るまで、沢山の葛藤
理想と現実のギャップ… 戸惑い…

日本人だというアイデンティティすら捨てられず
今着ている全てのものから自由になれなかった

けれど音楽をしている時は違った
信じるという壁を越え
安心と解放

私とみんなの魂を感じられる時間
まさに一つになれた感覚

私は日本人でも何者でもない
自由になれたとき 確かに繋がれた

2017年4月22日



「物」ではなく、「想い」をわかち合う

「ネパールを駄目にしているのは支援だ」

出発前に講演会で私が尊敬する宮原巍（みやはらたかし）さんが仰った言葉です。

宮原さんはネパールの国籍を取得し、50年以上ネパールに住み、貢献されてきた方です。

ネパールとの長い関わりの中でこそ実感した言葉だと私は受け止めました。

「一方的に物を与えるだけではない支援とは何か？」改めてこの言葉を胸に刻み、私は日本を旅立ちました。

しかし、実際のネパールでの日々はそんな事を考える暇もないくらいに毎日が必死でした。道を歩けば、平らな道はほとんど無く、デコボコ道でいつも足元に注意をして歩きました。日本での生活とは違い、ネパールでは保証された安全というものをほとんど感じる事はなかったかもしれません。そういった経験からランタンは、スラムでの電気が通ってない生活に少しでも安心感を与えることができると感じました。

しかし、ランタンは言ってみれば、「物」で、与える側と、もらう側に分かれることには変わりはありません。

この関係性を越えれたと思った瞬間がありました。それは「音楽」でした。

ランタンの光と一緒に音楽を共有している時は、皆が心を開き、そこに立場はありませんでした。

私はスラムの方々がこのランタンを日常で使う時に、音楽で一つになれたことを思い出して欲しいと心から願います。

その時にランタンは単なる「物」ではなく、これからのネパールと日本を繋ぐ「想い」になると信じます。

佐野碧



メディア出演

2017年4月20日 Media NP online TV



レポーター：Anil Pangeniさん



2017年4月24日 Kantipur TV



VJ：Lama Roshanさん



HIKARI SONG GIFT公式テーマソング 千の灯火～Shanti～

作詞・作曲：佐野碧

大きな空から降る 雨音は ねえその場所から
どんな風に 見えてるの? どんな風に聴こえてるの?

暗闇、心闇、無念、不条理、夜の空 あなたに会うための道のりすべて
ここまで私のところまで繋がっているの 今照らすあなたに 見えるように

きっと会えるよ 灯火 thousand of candle keep lighting our road
辿る光を この道は thousand of candle
会える場所はShanti

泣いて そう青く この大地が 受け止めてくれる
湿ったこの土は 太陽の香りがする
虚しさ、ふがいなさ、届かないやるせなさも あなたに会うための道のりすべて
ここまで 私のところまで繋がっているの 共に辿る光を灯して行くよ

きっと会えるよ 灯火 thousand of candle keep lighting our road
辿る光を この道は thousand of candle
会える場所はShanti

あなたを想うとき 私は強くなれる 探してたはずの愛は どこにでもない
今この瞬間にある

きっと会えるよ 灯火 thousand of candle keep lighting our road
辿る光を この道は thousand of candle
会える場所はShanti

きっと会えるよ 灯火 thousand of candle keep lighting our road
辿る光を この道は thousand of candle
会える場所はShanti

(bhetne thau Shanti)

～災害支援へのご協力（義捐金）のお願い～

HIKARI SONG GIFTは来年も開催予定です。

※このフェスティバルは、設営・音響などすべて、現地ネパール人スタッフ（会社）に依頼

※フェスティバル必要経費以外（渡航費等）は自己負担

※チャリティフェスティバルのため、入場料はフリー

確実に届く支援です。ご協力宜しくお願いいたします。

振込先

【ゆうちょ銀行】

【口座名】ヒカリソングギフトネパール支援の会ヒカリソングギフトネパール
シエンノカイ)

【店名】018(ゼロイチハチ)

【店番】018

【預金種目】普通預金

【口座番号】9399389

ご協賛

Saino Nepal／「ITで日本を元気に！」／三菱製紙株式会社／株式会社イチイ
日本ヒマラヤン・アドベンチャー・トラスト／ネパリダイニングダルバート
荻野政男さん／滝和美さん／赤尾保志さん／工藤幸裕さん／濱安高信さん
ヨシムラアヤさん／中村鉄弥さん／中村奈央子さん／小泉直美さん
庄子正一さん／山本靖子さん／イソールサブコタさん

ご後援

宮城学院女子大学／株式会社スパイスマインド／NPO法人日本・ネパール文化交
流倶楽部／公益財団法人 仙台観光国際協会／株式会社ハートス／
ユーディーエヌ合同会社／国際協力団体Anchor／Times FM90.6(in Nepal)

Special Thanks

Saino Nepal、優子さん、ラジュさん、ディネシュさん、佐々木さん、
野津さん、荻野さん、Sunita Waibaさん、侍` /ZAMURAIさん
四宮さん、ティカさん、ラマさん、豊さん、ヨシさん、富永先生 And you..

LIVE

Keshab badi／Manda: band／Paurakhi basti community／Sarada dongol
Nita pradhananga pradhan (MC)

鈴木カオル(Suzuki Kaoru)／佐野碧 (SANO AOI)

Photo by Kaoru Suzuki

We live on the earth

